

カリキュラム

～ 本書の処方箋 ～

本書は「医師国家試験の取扱説明書」です。そのタイトルが示すように、医師国家試験をどのようにハンドリングしていくかが主題となっています。

主な読者の対象は5、6年次の医学生を想定して制作しましたが、「医師国家試験」に興味を持っている方が本書を手取ることも想像できます。医師国家試験の受験期の医学生以外にも、病院実習前の医学生、初期研修医、指導医、大学教員、医学生の保護者、医療業界の他職種、というように多岐にわたることでしょう。そこで、それぞれの立場・時期に応じて本書を効率よく活用できるようなカリキュラムを設計しました。以下のように読者の対象をtype AからFの6系統に分類して、それぞれに推奨される処方を示しています。AからEは医学生/医師、Fはその家族を想定しています。

A After Clinical Clerkship	受験準備期の医学生〈6年次〉
B Before Clinical Clerkship	病院実習前の医学生〈1-4年次〉
C Clinical Clerkship	病院実習中の医学生〈4-6年次〉 ← main target
D Medical Doctor	臨床医(特に 初期臨床研修医)
E Educator	指導医/大学教員
F Family of medical student	医学生/医師の家族

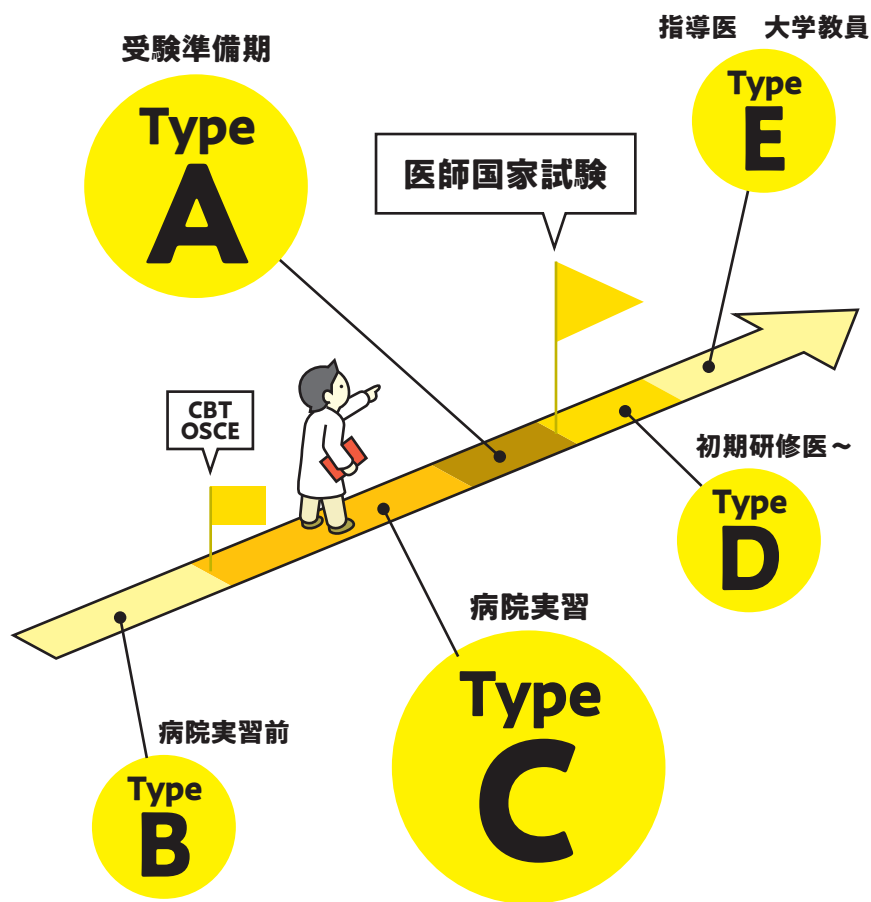
受験準備期は、医師国家試験の過去問演習が中心となります。過去問解答解説集(メディックメディアの「クエスチョン・バンク」など)や各予備校講義がメインの教材となりますので、その演習効率を向上させるようなカリキュラムにしました。資格試験の観点で、医師国家試験を確実に合格するためには、どうすればよいかという一点に照準を当てています(第1章、第2章に焦点を当てています)。

病院実習中は、比較的時間を確保できる期間です。過去問演習に割く時間はもちろん、昨今の医師国家試験の臨床化傾向に対応できる唯一の時間とも換言できます。したがって、十分な時間を費やして、本書を前から順に通読することを推奨しています。

また、病院実習の前段階では、まずCBTやOSCEをクリアしなければならないという障壁がありますが、長期的な視点で医師国家試験の準備をしたいという医学生は本書のよい適応となるでしょう。臨床医の思考や実臨床のリアリティを早期に展望できるように、読みやすいコラムや実習前に役立つコンテンツを中心にpick upしています。

卒後についても、初期研修医で有用な技術や、指導のヒントになる箇所をカリキュラムとして提示しています。(第3章に焦点を当てています)

このように、読者の立ち位置ごとに推奨されるコンテンツを設計したので、右ページの図を参考に現在位置を確認し、typeごとの処方箋をチェックしてください。



Type F

医学生／医師の家族

詳細は次ページへ→

Type A 受験準備期（試験まで6カ月以内）

試験合格をいちばんの目的として、過去問演習の効果向上を図る。

演習日

☐ 第1章 [解く]→[読む] (計7問)

／／

☐ 第2章 [解く]→[読む] (計17問)

／／

☐ p108 column 「医師国家試験の特性」

／／

☐ p238 column 「臨床実地問題の本文が一般問題で出題されるとしたら」

／／

☐ p172 column 「最初から与えられるか、自身で拾い上げるか」

／／

☐ p91 column 「所見の多数決」

／／

☐ 第3章 [読む] (時間が確保できれば)

／／

☐ 第4章 [読む] (時間が確保できれば)

／／

Type A' 受験直前期（試験まで1カ月以内）

主に試験当日を想定した準備を最優先事項とする。

演習日

☐ 本書マーカー部分のみを拾い読み→直前に確認したいフレーズを1ページにまとめる

／／

☐ 付録②エラー集

／／

☐ #21 過去問は直近3カ年分を徹底的に研究・演習する

／／

☐ #15 設問文を正確に捉える

／／

☐ #39 優先度を考えて decision making を組み立てる

／／

☐ #17 見直して迷ったときには最初の答えを優先させる

／／

☐ #20 モヤモヤ問題をいち早く察知して適切に対応する

／／

☐ #18 禁忌問題は治療・緊急性・倫理的配慮で察知する

／／

☐ p98 column 「禁忌問題に対する心構え」

／／

☐ p305 致命的なエラーを未然に防ぐ Power Phrase 集

／／

Type B 病院実習前

病院実習で効果的な学びを得るには、
どのような準備をして臨めばよいかのヒントをつかむ。

演習日

☐ p126 column 「粹な診療をめざして」

／／

☐ p243 column 「基本的な医学知識の習得のために」

／／

☐ p18 column 「最初の3秒」

／／

☐ p93 column 「現場で本当にβ遮断薬禁忌を回避できるか」

／／

☐ p148 column 「解剖学・生理学の重要性」

／／

☐ #2 診断ツールを自在に操る

／／

☐ #13 症例情報の後半には特異度の高い所見が来やすい

／／

☐ #16 画像所見は言語化する

／／

☐ 統合演習5 カルテ記載のコツ

／／

☐ 第3章 [読む] (計23問)

／／

☐ p152 coffee break 「evidence をどのように検索するか？」

／／

Type C 病院実習中

第1章→第2章→第3章→第4章 配置された順に[解く]+[読む]

演習日

- ☐ 第1章 [解く]→[読む] (計 7問)
- ☐ 第2章 [解く]→[読む] (計 17問)
- ☐ 第3章 [解く]→[読む] (計 23問)
- ☐ 第4章 [解く]→[読む] (計 10問)
- ☐ 付録④各種文献の使い分けについて

/	/
/	/
/	/
/	/
/	/

Type D 臨床医 (初期研修医)

初期研修医の日常診療において役立つエッセンスを集めた。

演習日

- ☐ #2 診断ツールを自在に操る
- ☐ p78 column 「主訴から得られる恩恵」
- ☐ p250 column 「足し算的の次は引き算的」
- ☐ p152 coffee break 「evidenceをどのように検索するか？」
- ☐ #22 30秒サマリーで反復の回数を増やす
- ☐ 付録③30秒サマリー集
- ☐ 第3章 [読む] (計 23問)

/	/
/	/
/	/
/	/
/	/
/	/

Type E 指導医／大学教員

医学生を指導するという立場で有用なコンテンツを提示する。

演習日

- ☐ #1 医師国家試験の過去問を大切に扱う
- ☐ #12 taxonomyの理論で出題パターンを認識する
- ☐ p82 column 「論点」
- ☐ p85 column 「先手の診療」
- ☐ p160 column 「言葉の選択」
- ☐ p164 column 「診断推論の早期閉鎖」
- ☐ p194 column 「安全に失敗してもよい環境を」
- ☐ 付録 (①～⑤のすべて)

/	/
/	/
/	/
/	/
/	/
/	/
/	/

Type F 医学生／医師の家族

家族に医師国家試験の受験生がいる方へ。

演習日

- ☐ #21 過去問は直近3カ年分を徹底的に研究・演習する
- ☐ #42 実臨床と資格試験との乖離を知る 「医師国家試験改善検討部会 報告書」
- ☐ #47 臨床には正解がない
- ☐ 統合演習⑩ VBP [解く]→[読む]
- ☐ p231 coffee break 「窓の縁」
- ☐ p108 column 「医師国家試験の特性」
- ☐ p172 column 「最初から与えられるか、自身で拾い上げるか」
- ☐ p255 column 「誤読が生じるメカニズム」

/	/
/	/
/	/
/	/
/	/
/	/
/	/